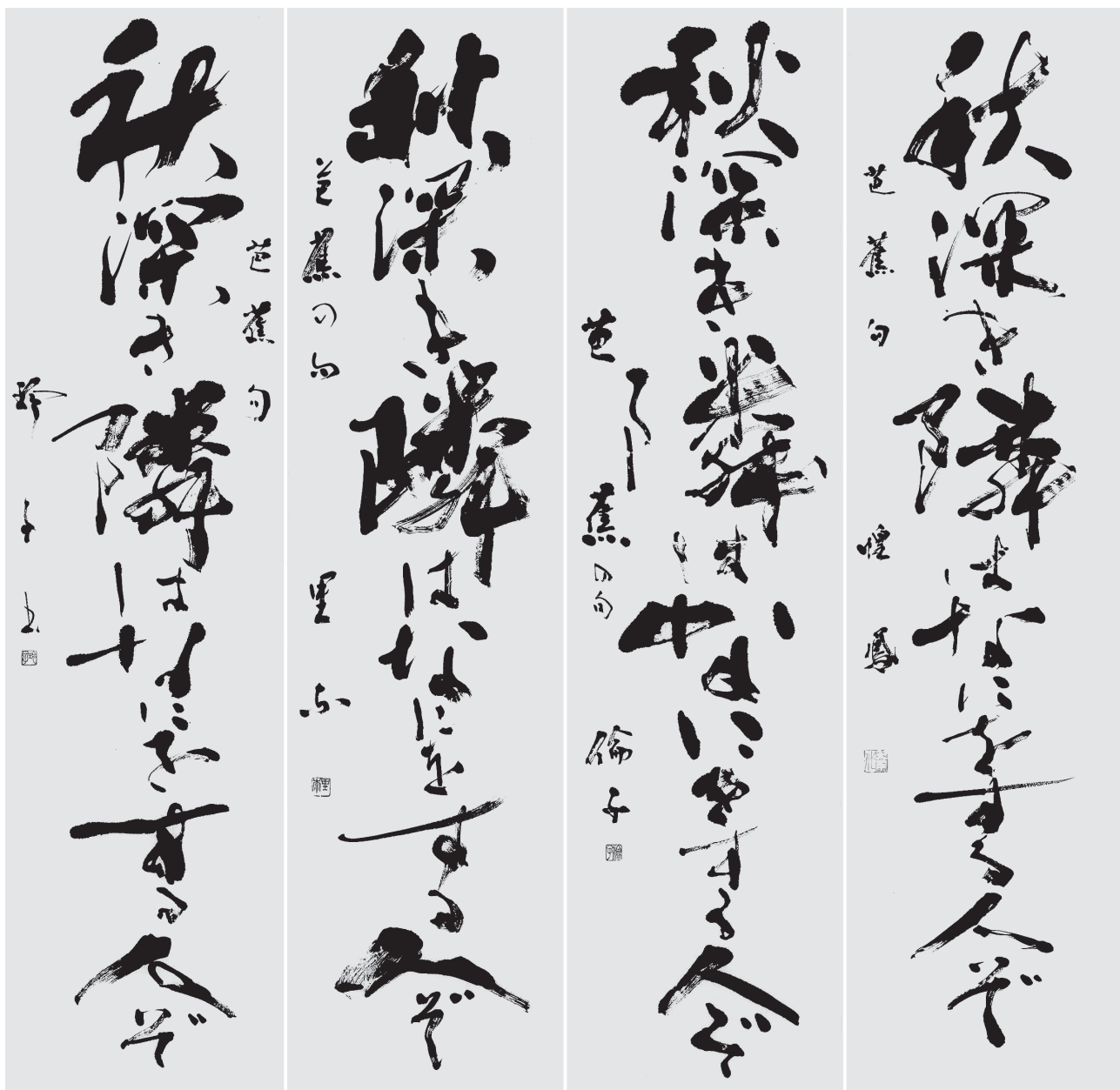


江幡太瓏先生選評



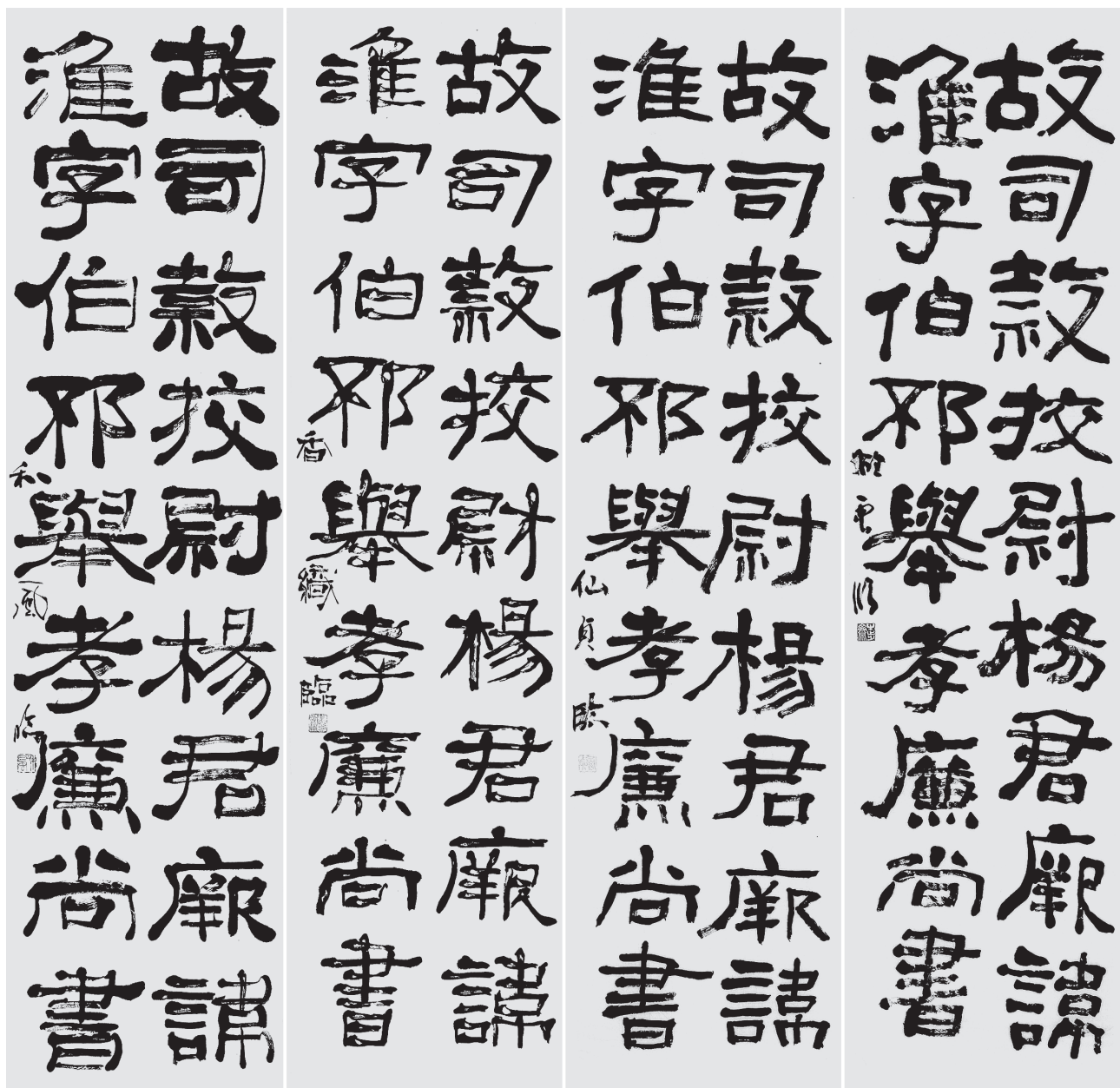
加藤 煌鳳 推選
躊躇なく筆を運びリズム抜群で生き生きとしており、いつまでも観ていても飽きのこない快作である。強いてあげれば後半仮名部に強弱が欲しかったかな。

福田 倫子 推選
「偏」の位置や「な」の大きさと太さ、度肝を抜かれましたが成功しています。「隣は」の素晴らしい渾身の筆で潤渇、大小の効いた作品になった。「ぞ」を潰せば良かったね。

白澤 里奈 推選
「秋」の禾偏の筆路がややはつきりしませんが、半分から上の強さ、そして右に傾けたのを「人」の二画目の強さと太さで見事に修正をした所など心憎いばかりです。

岡野 玲子 推選
落筆の高さと筆圧の強弱で太細を見事に表現しています。貴女も「す・人」の強さ、太さで上部とのバランスを巧みにとっています。お名前左を少し空けたかった。

藤田壽樹先生選評



渡辺雄雲 推選
「楊淮表紀」の持つ型にはまらない自然な変化と雰囲気
を巧みに捉えて表現している。自分の中で古典を消化し、その特徴を現出する力に並ばぬ力を持つ方だ。

林仙貞 推選
長鋒筆を噛み締めるように運び、太細の変化を抑制しつつ、この古典が持つ朗らかに暢達した趣をいかにく発揮している。しかも洒脱な魅力に溢れている。

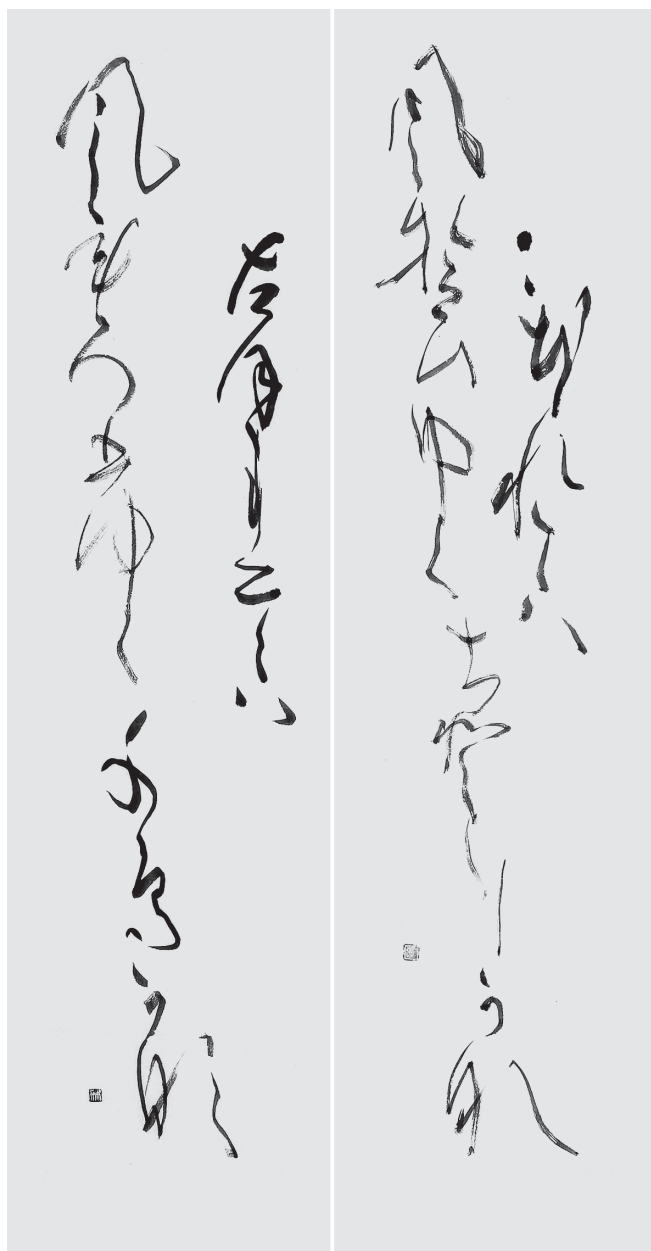
鯨井香織 推選
超長鋒の筆と濃墨を駆使して生まれる飛白の線、直筆で良く食い込んだ線とが織り成す温雅で気負いのない書きぶりが全体を支えている。落款も調和し見事な作。

大澤和風 推選
懐を広く、紙面や字間空間を悠揚と捉えた規模雄大な作。全体を流れる一貫した自然なリズム感が心地良い。達者な落款も含めて纏まりにも隙がなく素晴らしい。

赤富士北祭先生選評



露崎桂子先生選評



池田博江 七段
筆を自在に開閉しながら、場面の變化をよく表現し、強い連綿も見事です。今回怪しい字が多かった「支」の表現もおさえていますね。流石。

伊藤幽昇 準七
瑞々しい線で、清流を表現したような美しさがあります。細い線にも抑揚があり素晴らしい。終句やや大きいが伸びやかさが光っています。

小早川里香 準六
太細の変化をつけながら「の」などの右側の旋回部分の用筆もよく穂先がしぼれている。腕全体で運筆され、紙面の余白も美しい秀作です。

枝永真美 師範
「白露」の豊かな表情と「の」のキリッとした線の対比を見事に捉えた作。ぐいぐいと筆の弾力を利かせたリズムが観るものに迫ってきます。

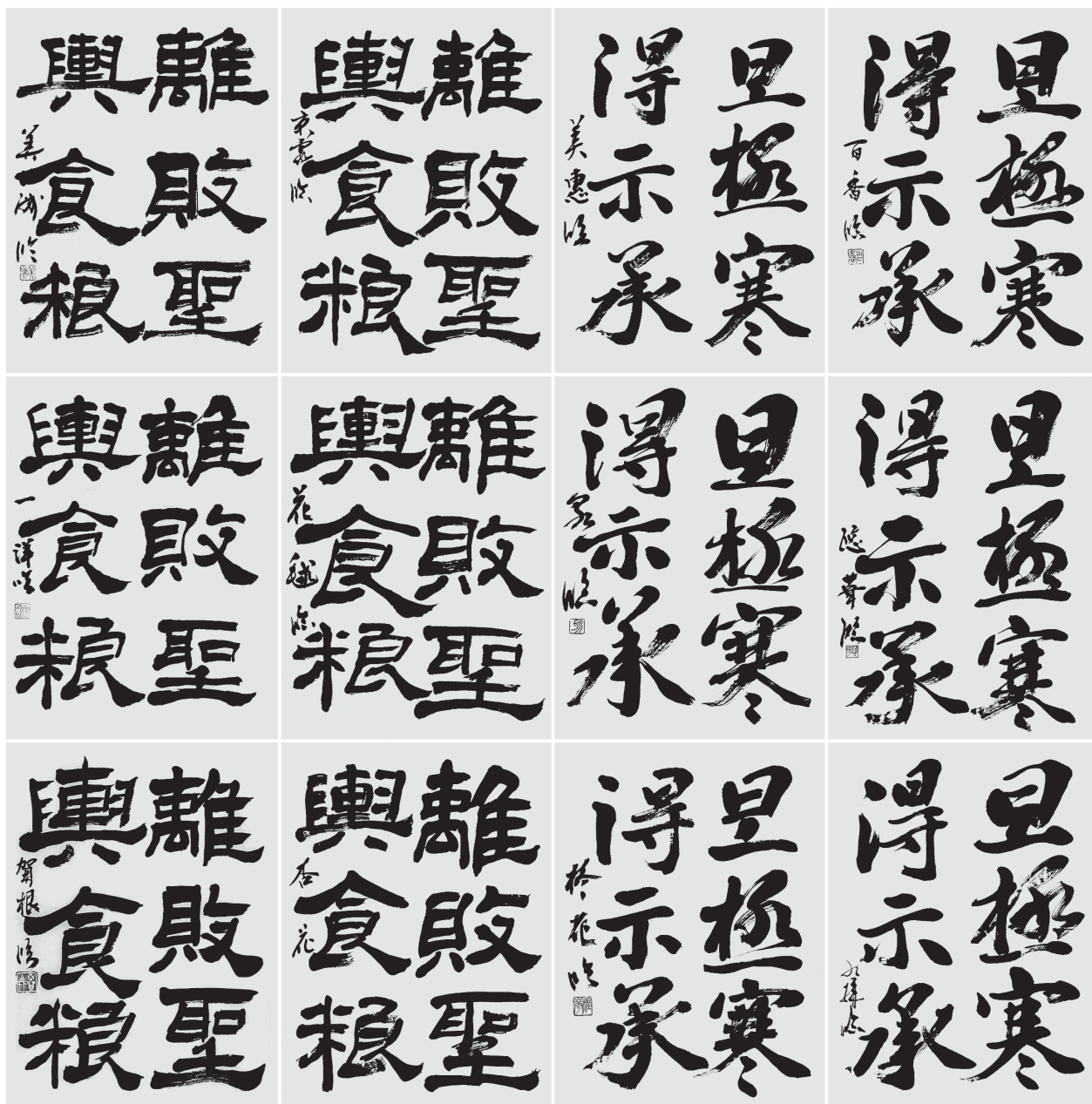
住吉房子 師範
墨をややひくような和紙風の用紙に書かれており、細めの線も味わいが深くゆつたりとした作。後半のしなやかな線に余韻が感じられます。

東谷美子 七段
筆のあたりも表現が的確で、弾んだ筆が心地よいリズムを奏でています。紙面のとらえ方に余裕が感じられますが、日頃の研鑽の成果でしょうね。

板野 ちか子 推選
参考作品とは異なる文字で纏められ、落ち着いた柔らかな筆線によく合った作品になりました。行のゆらぎがもう少しあると更に趣深い作になるでしょう。

市来 みち子 推選
迷いのない運筆で、筆鋒の開閉も良く、淀みなく流れ、大変魅力的な作です。参考作品をよく捉えて、ご自分のものにしていきます。「かな」がやや平凡で惜しい。

高野清玄先生選評



大竹百香 師範

羊毛筆を駆使して立体感のある線での作品である。その為、表情豊かに生き生きと書き上げられ魅力的である。半紙六文字の章法も完璧である。

川西悠華 師範

運筆における筆の浮沈、筆先の開閉が巧みであり、線に強弱、細太の変化が表現され面白い。ぐいっと押さえた太い線は、観る者を圧倒する。

中島九拝 準師

やや淡墨きみのにじみを活かし潤いのある作にした。筆毛をしつかり立てて穂先が紙をとらえているのが良い。軽い動きが全体を引き立てる。

小川美恵 準八

文字をやや小振りにして全体をとらえており、余白が効果的で明るい作となった。何げなく使われる逆筆が自然体で書線を落ち着かせている。

中島 泉 準七

空間を大きくとらえた動きで大胆な筆致である。作品が大きく見えこちらに迫ってくる。細めの横画、太めの縦画が効果をあげた佳作である。

松原終花 初段

端正な字形を的確に配字して安心して見られる。筆遣いも筆毛の先まで気持ちが届いており、線が紙を離れるまで生きている。真面目な書作品だ。

滝宮京霞 師範

細めに引かれた線は穂先が紙面に深く刻まれ心地良い。その為しつかりと骨力のある線が生まれ、安定感のある作品となった。「離」の墨量が良い。

小原花穂 師範

横画、波磔が伸びやかで気持ち良く大きさを感ぜさせる。太く強調された波磔は自然と作品の中に溶け込み美しい流れとリズムを表現している。

安川査花 五段

温もりのあるゆったりとした線は作者の持ち味だ。筆の握りが柔らかな為、線に硬さがない。全体を包み込む雰囲気は今後の作品に生かそう。

山口美洲 準五

字形を扁平にとり文字の上下の空間をあけた章法は隸書の基本形だ。穂先を使いこなし細めの線で書かれた文字は、きりつと引き締まり完成。

小林一洋 三段

やや楊硯を思い起こさせる様な波磔の強弱が上手く表現され臨書でありながら作品としての魅力あるものにした。潤いある墨量は余裕を感じます。

佐藤亜賀根 四級

扁平水平逆筆蔵鋒そして波磔といった隸書の基本用筆がマスターされての佳作。四級としての鍛錬は相当なものであつたろう。今後も期待注目。